
10 《ディケイド》 × 40 《オールライダー》 仮面ライダーの世界

作者 B

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

10《デイケイド》×40《オールライダー》 仮面ライダーの世界

【Nコード】

N6860Y

【作者名】

作者B

【あらすじ】

仮面ライダーをクロスさせるなら、デイケイドでよくね？という発想の元、「オーズ・電王・オールライダー レッツゴー仮面ライダー」の主人公にデイケイドを加えてみました。基本原作通りの展開なので、目新しい展開はあまり期待しないで下さい。あと、映画を見てない人でも分かるように書いていくつもりです。

これが初投稿作品です。至らない点が多々あると思いますが、ご了承下さい。

プロローグ（前書き）

「仮面ライダーは、無敵だ！」

「正義 仮面ライダー2号」

「V3がいる限り、野望は遂げさせん！」

「待ってくれ首領！貴方は人類を滅ぼすつもりか」

「見ていてくれ、オヤジ……」

「オレ、トモダチタスケル」

「天が呼ぶ！地が呼ぶ！人が呼ぶ！悪を倒せと俺を呼ぶ！」

「君も人生に命を懸けてくれ」

「人の夢の為に生まれた。この拳……この命はその為のものだ！」

「俺は……仮面ライダー10号」

「俺は改造人間、南光太郎！！」

「この世に光がある限り、俺は何度でも蘇る！！」

「行かなきゃ……誰かが俺に助けを求めてる……！！」

「みんな一生懸命生きてるんだ。それを壊しちゃいけない」

「Jパワーの戦士」

「これ以上、誰かの涙を見たくない！」

「俺は戦う！アギトの為に、人間の為に！」

「誰かを助ける為だけに变身する」

「俺には夢は無い。でも、守ることは出来る」

「戦えない、大勢の人の為に……俺は戦う！」

「鍛えてますからっ」

「俺は既に未来を掴んでいる。そしてこれからも……掴み続ける」

「俺、参上！」

「皆を守ってみせる」

「通りすがりの仮面ライダーだ。覚えておけ！」

「さあ、お前の罪を数えろ！」

「楽しんで助かる命がないのは、何処も同じだな」

『『『变身！』』』』

プロローグ

「あゝ、こりゃ駄目だ。一度ばらして修理しないと」

そう呟いたのは、光写真館を営んでいる”光荣次郎”だ。

「ああ、直るんならそれでいい。修理の間、代わりになるカメラを貸してくれ」

返答したのは居候の”門矢士”。どうやら、彼のカメラが壊れてしまったらしい。

「別にいいけど……レンタル代も含めて、きちんと払ってくれないと困るからね」

「わかったわかった」

「じゃあ……はい、これ代わりのカメラ。僕は修理してくるから」
そう言つて、栄次郎は士にポラロイドカメラを渡し、奥の部屋へ入つていく。

「さて、暫くはこれで我慢するか」

「我慢するか、じゃないですよ！いい加減溜まった付けを払って下さい……」

士に怒鳴っているのは”光夏美”。栄次郎の孫で、この写真館で祖父と一緒に働いている。

「わかってるって」

「もう！土君のわかったは当てにならないんですから。はあく、ユウスケも里帰りしちゃいましたし」

ユウスケとはこの写真館のもう一人の居候である。しかし、今回は登場しないので割愛する。

「お陰で口うるさいのが居ないから、最近はずかしくないな」

「もう！そんなこと言っただけは駄目ですよ！」

「その通りだぞ、家臣その6。私の世話をする者が一人減ってしまったのだからな」

「誰が家臣だ、誰が……ん？」

光写真館で暮らしているのは4人。では、今の声の正体は何なのか。ふと土が振り返ると

「降臨。満を辞して」

白い鳥が立っていた。

「貴方はジーク!?」

「おい、鳥！何でお前が居るんだ！」

二人は以前面識があるが、余り良い思い出がないため、とても嫌そ

うな顔をしている。

「家臣の為にこの私自ら出向いたのだ。茶の一つくらい出せんのか、家臣その6」

「お前なあゝッ！」

「落ち着いて下さい、土君！それで……土君の為って、どういづ」とですか？」

夏美が質問をすると、ジークは近くの椅子に腰かけ話し始めた。

「届け物だ。ほれ、これはお前の物だろう」

そう言って、懐からあるものを取り出す。

「これは……土君のカード？」

それは、絵柄の描かれていないカードだった。

「そうみたいだな。おい！このカード、どこで拾ったんだ？」

「ん？そうだな、あれは確か……」

士の質問に対し、ジークは回想に入る。

「1〜6ヶ月前の晴れか曇りか雨の日だったなあ」

「……つまり覚えて無いんですね」

「使えない鳥だ」

これ以上の質問は無意味だと士は思い、渡されたカードを眺める。

「そのカード、これから何が起こるのでしょうか？」

「さあな。わかっているのは、また新しい旅が始まるってことだけだ」

そう言うと、士はカードをしまう。

「今日は栄次郎は居ないのか？また私の美しい姿を写真に収めて貰おうと思ったのだが……」

ジークはそう言いながら部屋を徘徊する。

「ああ、そんなに歩き回ると」

「ぬおっ！」

ジークの足が背景幕の紐に引っ掛かり、そのまま倒れる。そして、背景絵が次の旅路を示すべく現れる。

「士君、これは……」

そこに映るのは、28人の戦士がズラリと並んだ姿だった。

「これは……」 仮面ライダーの世界”」

今再び、士 仮面ライダーディケイド の新たな物語が始まる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6860y/>

10《ディケイド》×40《オールライダー》 仮面ライダーの世界
2011年11月20日20時08分発行